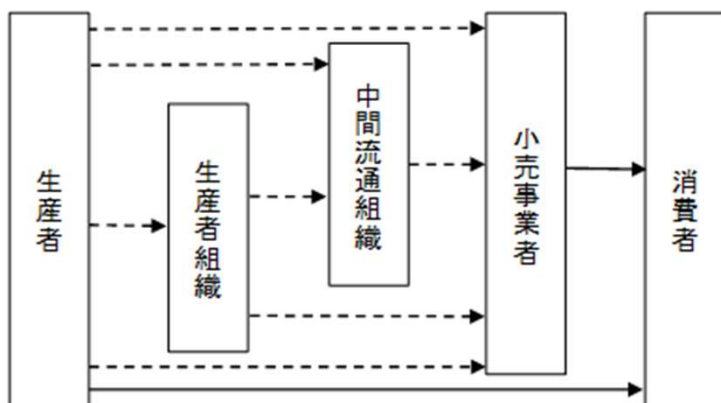




## 持続的な農産物・食品流通におけるEC活用に関する研究

生物資源科学部 助教 末永 千絵

農産物は、気候条件によって生産量や出荷時期が大きく左右されるため、生産のコントロールが難しいうえ、日持ちしないという特性を有しています。そのため、消費者のもとへ新鮮な状態で届けることが求められます。このような特性を持つ農産物を、いつでも・どこでも購入可能なECを通じて継続的に供給するためには、どのような取り組みや取引関係を構築すれば、無理なく販路として維持できるのか、流通に関わる農家、生産者組織、企業へのインタビューを重ねながら、そのあり方について検討を進めています。また、消費者に届くまでの過程におけるECやICTの活用にも注目しています。流通の一部主体がそれぞれ部分最適化を図るのではなく、サプライチェーン全体の最適化を実現するために、いかに技術を活用すべきかについて研究しています。これらの研究を通じて、地域の存続や活性化に向けた方策を検討するとともに、農業・食品流通の持続可能性について検討していきたいと考えています。



図Eコマース向け農産物サプライチェーンの概念図